

0. はじめに

新型コロナウイルスが流行し始めてから、3度目の執筆です。会員の皆様におかれましては、健康に、あるいは感染から回復して後遺症に悩まされることなくお過ごしでしょうか。秋から冬の訪れ時、巷ではインフルエンザとの同時流行(ツインデミック)も懸念されておりました。3年生の進路指導担当としては、今年度が最も厳しいシーズンです。昨年度と一昨年度は生徒の罹患者がいませんでした。今年度は斑模様ではありますが、受験生の中に陽性者が出ております。この会報が発行される3月、世の中はどのような様子になっているのでしょうか。

1. 昨春入試(2022年度入試)について

合格先一覧については、進路部HPをご覧ください(<https://www.tochigi-edu.ed.jp/yaitahigashi/nc3/%E9%AB%98%E7%AD%89%E5%AD%A6%E6%A0%A1/%E9%80%B2%E8%B7%AF%E5%AE%A4%E3%83%8E%E3%83%BC%E3%83%88>)。受験方式が多様化しており、生徒から相談を受けて初めて内容を知る入試もあります。昨春は東京大学の学校推薦型選抜に挑戦した生徒がいました。おおまかな出願の流れは以下の通りです。

- ① 志願者はネット上で志願者情報を登録し、入学志願票を作成する。顔写真データは指定された形式のものをアップロードする。
- ② 提出書類はPDFにする。賞状や英検などの認定証は1つのPDFに統合する。教員が作成する書類(調査書、推薦書)も押印されたものをPDFにする。ちなみに、募集要項にこのような1文があります。「提出書類・資料は志願者と高等学校で協力しPDFデータに変換してください。」
- ③ 志願者は上記①②で作成したデータを進路部(担任)へ提出する。
- ④ 進路部は登録画面の指示に従って手続きをする。

非常に手間がかかり、かつ緊張する作業でした。間違いは決して許されません。生徒はなかなかデータを持ってこない。タイムリミットはもうすぐ。結局、出願完了は締切時刻の2時間前。郵送ではありえない状況です。久しぶりに脈拍が上がる経験をしました。大学にデータを送る仕組みはよくできていました。結果は不合格でしたが、生徒・担任・進路いずれにとっても勉強になりました。

2. 2022年度の動き

(ア) 職業人による講演会

前号の同窓会報にも記載しましたが、昨年度から同窓会の支援をいただいております。どうもありがとうございます。今年度は「アフリカ(ルワンダ)をアップデートせよ～自身の過去・現在・未来から皆様へのメッセージ From ルワンダ～」という演題で、Africa Note Ltd. 代表の竹田 憲弘氏に講演していただきました。ルワンダからのオンライン形式です。同窓会のおかげで、海外からも講師を招聘できるようになりました。その様子は先記の進路部HPに報告しておりますので、是非ご覧ください。

(イ) 入試結果分析に新たな視点を－GST との紐付け－

こちらも前号の同窓会報で予告しておりました。大学入学共通テストの自己採点結果を用いた分析だけでなく、リテラシー・コンピテンシーの測定結果と入試結果をつなげることによって、資質の面から何か読み解くことはできないかと思案しております。合格者と不合格者の比較、共通テスト E 判定や D 判定からの逆転合格者の特徴、反対に A 判定や B 判定からの逆転不合格者の特徴等、切り口は様々です。データの個数が少ないので断定することはむずかしいのですが、逆転合格者は協働力(目標に向かって周囲の人と協力的に課題に取り組む力)と自信創出力(自分の強み弱みを理解して、自信を持つのと併せて自分を向上させようとする力)が高い傾向が見られました。今後数年かけてデータを蓄積していけば、我々教員の指導にも示唆を与えることになるでしょう。

(ウ) 附属中 1 期生が社会人デビュー

去年 11 月に附属中の創立 10 周年記念式典が行われましたが、大学院への進学等を除き、附属中 1 期生が社会人としての第 1 歩を踏み出しました。進学先の土地で仕事を見つけた人もいれば、栃木県に戻ってきて公務に就いた人もいます。それぞれの場所で活躍することを願っております。

3. コンピテンシーの今

OECD がコンピテンシーの概念を提唱してから 20 年ほど経過しました。日本語では「資質・能力」という言葉が充てられています。この間、各団体がそれぞれの文脈でこの概念を咀嚼し、研究や開発、情報発信をしてきました。この同窓会報でも 2018 年度版(2019 年 3 月発行)の進路便りで触れております。大学の研究で知られたところでは、東京学芸大学が 2015 年から 2022 年 3 月まで調査・研究に取り組み、その成果はオンライン動画配信サービス「21CoDOMoS」で見ることができます(<https://www2.u-gakugei.ac.jp/~jisedai/>)。また、お茶の水女子大学は 2022 年 9 月にコンピテンシー育成開発研究所を開設しました。大学におけるコンピテンシーベース教育の推進と、幼児期から大学期までのコンピテンシー研究と成果の発信を目指すとのことです(キャンパス内に幼稚園・小学校・中学校・高等学校全てあります)。詳細は HP(<https://www.cf.ocha.ac.jp/icd/index.html>)をご覧ください。高校では、現 1 年生から新学習指導要領による指導が始まりました。これまでの要領と比べたとき、資質・能力の面が強調されています。文部科学省が令和 4 年度に改訂した医学教育モデル・コア・カリキュラム

(https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html)でも、第 1 章が「医師として求められる基本的な資質・能力」となっていて、ここにも資質・能力が登場します。今後至る所でコンピテンシーを念頭に置いた動きが出てくると思います。

4. 学び直し

今年度「リスキリング」という言葉が流行りました。2022 年 6 月には日本リスキリングコンソーシアムという団体も立ち上がりました(<https://japan-reskilling-consortium.jp/>)。

リスキリングとは「新しい職業に就くために、あるいは、今の職業で必要とされるスキルの大幅な変化に適応するために、必要なスキルを獲得する／させること。(出典: 経産省/リクルートワークス研究所)」変化の激しい現代では、これまでに身につけた知識やスキルはすぐに陳腐になる。時代に適応するためには、自ら進んで学ばなければならない。その態度を高校在籍中に身につけさせたいものです。知識は忘れてしまうけれど、知識を覚える、学問に向き合う、自分で問題を解決する、ジレンマを乗り越える、そのような経験はリスキリングにも役立つはずで。最後にアインシュタインの言葉を引用して、今年度の筆を置きたく存じます。「教育とは学校で学んだことをすべて忘れた後に残るものである」